

令和6年(2024年)11月13日

保護者の皆様

札幌市立北郷小学校

校長 田尾 寿之

「全国学力・学習状況調査」における 本校児童の結果と課題、改善方向について

向寒の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に深いご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、文部科学省が4月18日(木)に6年生児童を対象に実施いたしました「全国学力・学習状況調査」につきまして、本校の結果と課題、改善の方向がまとまりましたので、お知らせいたします。

国 語

本 校 の 概 要

□〔知識及び技能〕の「言葉の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」、〔思考力、判断力、表現力等〕の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全ての内容で、正答率は、全国平均を下回っている。

・特に、「話すこと・聞くこと」の目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討することについて全国と同様、本校も正答率が低かった。

・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことについて、無回答率が全国平均よりも高かった。

今回の調査における課題

- 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして伝え合う内容を検討すること。
- 目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
- 文の中における主語と述語との関係を捉えること。
- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと。

改 善 の 方 向

○目的や意図に応じて必要な資料を引用したり、写真や図表を用いたりして、事実と感想、意見を区別して書く活動の充実を図る。また、自分の考えが伝わるような書き表し方が工夫できるように、意見文や提案書など、書く活動の充実を図る。

○大事なことを落とさずに聞いたり、話の意図を考えて聞き合ったりする学習の充実を図る。

○文や文章の中で、漢字を正しく使えるように習熟を図る。

○国語の学習に限らず、日常の言語活動を通して、実際に話したり聞いたり書いたり読んだりする場面を意識しながら、学習を進める。

算 数

本 校 の 概 要

□「数と計算」「図形」「測定」「変化と関係」「データの活用」のすべての領域で、正答率が全国平均を下回っている。

・特に、「数と計算」の除数が小数である場合の除法の計算の正答率が低かった。無回答も多かった。

・いずれの領域においても、記述式の問題における無回答率が全国平均より高かった。

今回の調査における課題

●小数の乗法および除法の意味について理解し、計算ができること。

●立体図形を構成する要素に着目し、図形の性質や図形の体積の求め方を考えること。

●示された表やグラフから必要な数を読み取ること。また、必要なデータを取り出して、おちや重なりがないように分類整理することなど、資料を基に考えること。

改 善 の 方 向

○既習と関連付けながら、数と計算の意味や仕組み、基本的な図形についての理解が深まるような学習活動の充実を図る。

○算数を日常生活の事象と結びつけたり、他教科においても具体物、図、表、グラフ、数、式などを意識させたりして、数学的に表現し伝え合う活動を取り入れる。

児童質問紙～学習・生活の様子

■ 基本的な生活習慣等について

「平日にどのくらいテレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、スマホなどを使ったゲームを含む)をしているか」「平日にどのくらいスマホなどでSNSや動画視聴などを行っているか」の問いについて、その時間が全国平均を大きく上回っていました。夜遅くまで起きていたり、寝るぎりぎりまでSNSや動画視聴をしていたりするということが、学年が上がるにしたがって増えてきているようです。

■ 自己有用感、幸福感等について

「人の役に立つ人間になりたいと思っている」「自分にはよいところがある」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはあるか」の問いについては、どれも全国平均を下回っていました。

■ 学習習慣について

「学校の授業以外の学習時間」の問いについては全国平均を大きく下回っていました。一方で、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができているか」と回答した児童は全国平均と同じ程度でした。

令和6年度の全国学力・学習状況調査から、ゲームや SNS、動画視聴の時間が全国平均よりも非常に多いことが結果として表れました。児童の健康を守るためにも使用時間について考えていく必要があります。あわせて、情報モラル教育についても、各家庭での協力が必要となります。学校では、道徳、学活、各教科で情報教育に関する学習があります。今後も、学校から情報提供を積極的に行い、ICT を上手に活用できるようになるとよいと思います。さらに、「自分にはよいところがある」の項目に関して、本校で全学年を対象としたアンケートでも肯定的な評価をした児童は昨年度よりも下がってしまいました。本校の児童は、自己肯定感が上がることが自信につながり、何事にも頑張る原動力になるのではないかと感じます。「一人一人が大切にされている」と実感できる学校づくりに向けて、『プラスのまほう』を合言葉に、今後も教育活動に取り組んでいきます。また、「さっぼろっ子『学びのススメ』」を活用しながら、子どもへの望ましい関わり方について、保護者の皆様と、更に共通理解を図れるとよいと思います。今後とも、ご理解ご協力をよろしくお願いいたします。